

「特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業」

特異な才能のある児童生徒の指導・支援を行う
教職員・保護者を対象とする相談支援に関する実証研究

令和5年度 成果報告



目次

1

令和5年度に実施した取り組みについて

2

支援対象者(保護者・教職員)からの評価

3

令和6年度の計画について

令和5年度の事業実施体制

事務局3名＋太字の専門家2名で団体内部にチームを構築。その他、外部から7名の専門家にもご協力をいただいた。

専門家一覧

伊藤駿	広島文化学園大学専任講師、当団体理事	教員支援(個別相談対応有)・保護者支援
佐藤駿一	東京大学・どんぐり発達クリニック非常勤医師	教員支援・保護者支援
石田祥代	千葉大学教授	教員支援(個別相談対応有)
中道圭人	千葉大学教授	教員支援(個別相談対応有)・保護者支援
是永かな子	高知大学教授	教員支援(個別相談対応有)・保護者支援
Divya Jindal-Snape	英国ダンディー大学教授	教員支援
Margaret Sutherland	グラスゴー大学教授	教員支援
田尻智哉	岡本台病院医師	保護者支援
宮尾益知	どんぐり発達クリニック院長	保護者支援

令和5年度の取り組みの全体像

教職員支援と保護者支援の2本柱でそれぞれ支援策を実施。(青字部分は当初の予定からの変更事項)

教職員支援

日々子どもへの指導や支援の方策をはじめ、カリキュラム・マネジメントなどの相談に応じられる体制を整える。

1 教職員向け個別相談

- ・ 週1回オンラインを原則とした個別相談(30分~1時間)。
- ・ 専門家1名との個別相談を原則とし、予め相談シフトを公開することで相談内容と専門家の専門内容のマッチングを図る。
希望によりメールでの相談も対応可能とした。

特に支援を有するとき

- ・ 専門家を派遣し子どもの実態を踏まえたケース会議等の形式で相談支援に応じる(月2件程度を想定)
→令和5年度は対象ケースが無く実施なし

2 「先生向けギフトッド相談会」

- ・ 特異な才能を有する児童生徒が直面する困難についてのレクチャーと相談会を合わせたもの。
- ・ 実施頻度は月1回で、対面とオンラインをそれぞれ隔月で実施する。

3 EDUPEDIAでの相談内容と対応の発信

- ・ 申請団体の運営する教職員向けのウェブサイトEDUPEDIA(月50万以上PV)上に、相談事業で寄せられた相談内容とその対応について公表する。→現在準備中。公開は令和6年度の見込。

また、当事業に関わる特別支援教育の専門家に、特異な才能のある児童生徒への対応や教員に伝えたいことなどに関して話を聞いた内容について記事化し発信する取り組みも行う。

保護者支援

1 オンラインチャットサービスによる相談受付

- ・ チャットサービス上に随時質問などを投稿できるようにし、専門家及び研修を受けた保護者のピアサポーターが質問に回答をする。

2 「はじめての親の会」の実施

- ・ チャットサービスに保護者が入る前に、「はじめての親の会」を通じて自身の求める内容と提供内容のマッチングを図る。
- ・ 原則月1回、オンラインで実施をし、特異な才能を有する児童生徒の特性や保護者としてどのように接するのがよいかといった基礎的なレクチャーと保護者同士の交流会を実施する。

3 子どもの様子に関する保護者へのフィードバック

- ・ 申請団体がオンラインで実施している子ども支援活動へ月1回無料で参加できる日を提供する。
- ・ 子ども支援活動では、年齢の近い大学生が丁寧に子どもの話を聞き、子ども自身の興味関心を深めたり、その内容について子どもたち同士で共有したりする機会を提供する。
- ・ 子ども支援活動での子どもの様子などを記録し、保護者へのフィードバックへとつなげられるようにする。

4 「継続親の会」の実施

- ・ 原則月1回、オンラインにて、専門家や特異な才能を持つ当事者による勉強会や、保護者同士で日頃の悩みなどを相談し合う集いを開催する。

①個別相談

- 計7回実施(年度内に+2件予定)
- 参加者数7名
- 教員支援ユニットの先生方が中心に対応
- 希望に合わせオンラインまたはメールにて実施

②相談会 (勉強会)

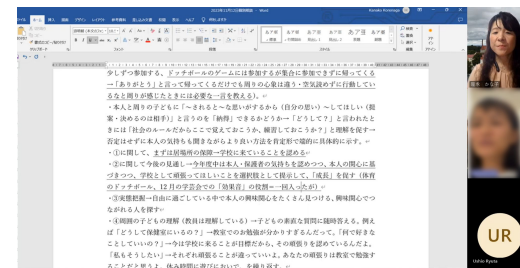
- 毎月1回実施
- のべ参加者数72名
- 千葉、広島、愛知、京都、及びオンラインにて実施

③EDUPEDIA 掲載

- 当団体が運営する教員向けWEBサイト(EDUPEDIA)に、教員向け個別相談を担当する専門家へのインタビュー記事を掲載
- 現在2記事公開中で、来年度以降も追加で公開予定



相談会の様子(千葉開催)

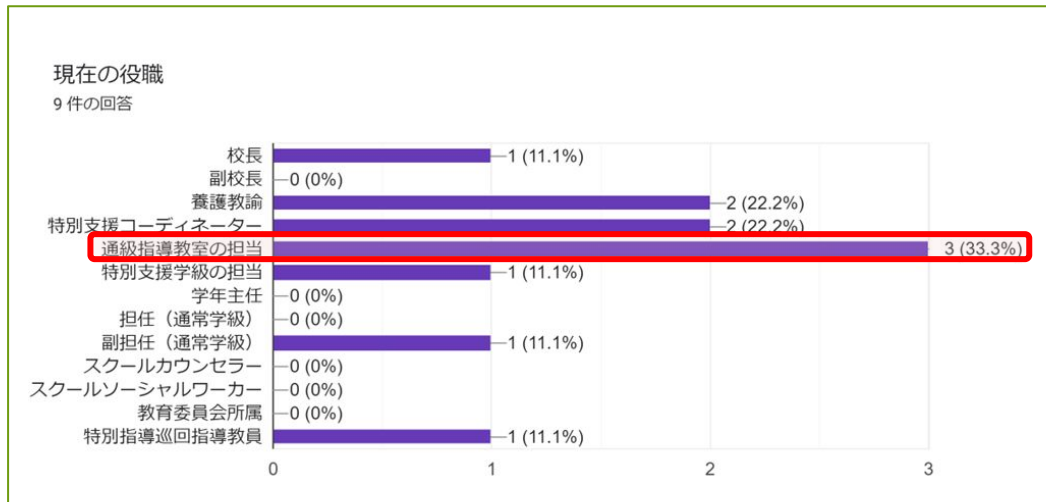
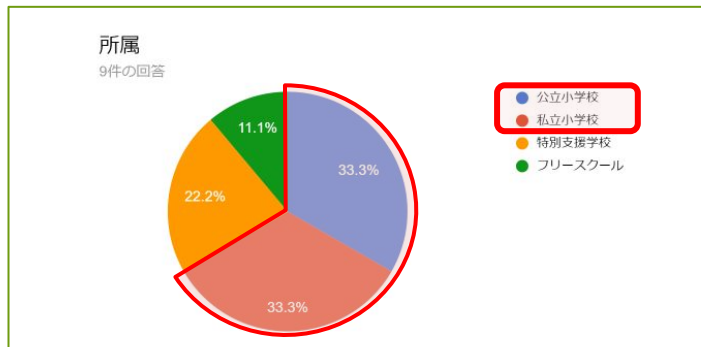
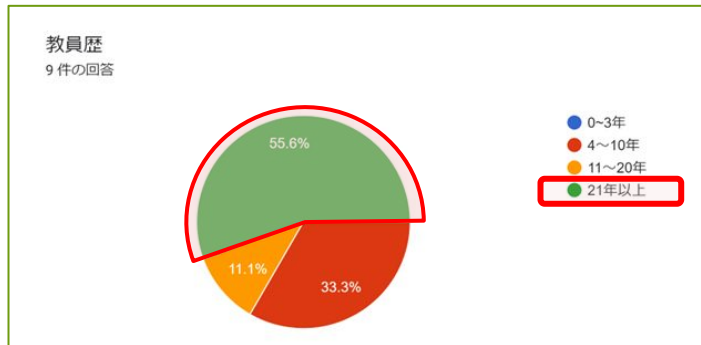


個別相談の様子

教職員支援

個別相談の申込者属性

9名の申込者の内訳は以下のグラフの通りで、教員歴21年以上のベテランの先生の利用が半分以上を占めた。また、小学校の先生からの相談が大半で、通級の先生からの相談が最も多かった。なお、通常学級の担任の先生の利用はなかった。



小学校低学年、男子児童に関する相談が多く、学習面に関する相談もあったが、生活面の困りに関する相談の方が多かった。

学習面

- ・「漢字ドリルをやりたいが、学習を指示されることを嫌う。」
- ・「授業デザインを行うにあたって、どういった観点や配慮を考慮しながらグループ分けや、課題設定をするのがよいか分からない。」

生活面

- ・「衝動性を抑える支援や指導の仕方を知りたい。」
- ・「正義感が強く、許せないものが多く、イライラしてしまう。」
- ・「勉強はできるが、スケジュール管理などができない。」
- ・「保健室登校をしており、通常学級の復帰を望んでいないが、どうしたらよいか。」

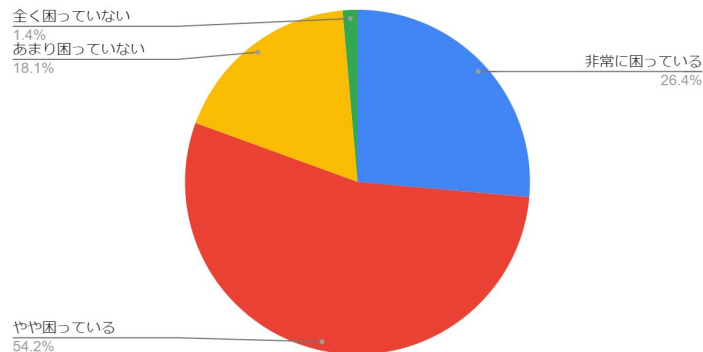
72名の申込者の内訳は以下のグラフの通りで、公立小学校からの参加が約半分を占めていた。

現時点で困り感を抱えていない勉強目的での参加も一定数見られるが、特異な才能のある児童生徒への支援の必要性の認知拡大という点で意味があると考え、引き続き歓迎していきたい。

また、会を知った経緯としては、保護者支援のオンラインチャットに参加している保護者経由での紹介を挙げた教員が多く見られた。

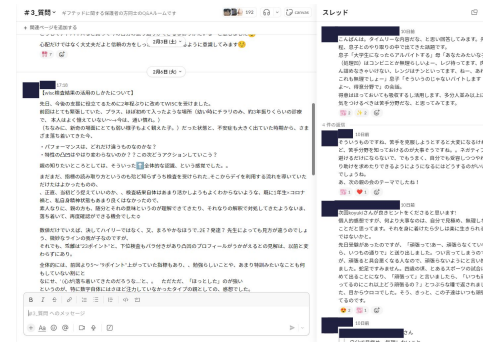
所属	全体における割合
公立小学校（国立を含む）	47.3%
不登校児向けフリースクール、NPO、療育センター等の支援員	23.1%
公立中学校（国立を含む）	12.1%
私立小学校	1.1%
私立中学校	1.1%
特別支援学校	3.3%
教育委員会等行政機関	6.6%
大学教員	1.1%
学生	3.3%
メディア	1.1%

「該当の児童生徒への指導・支援において、困り感ほどの程度ありますか」



①オンラインチャット

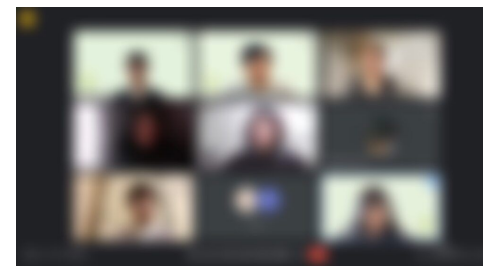
- **165名の保護者が参加**
- 保護者同士のコミュニケーションの場を提供を目的としており、特に積極的にコメントを行う「ピアサポーター」を立候補制で任命。研修会も実施した。
- 専門家も複数名参加し、必要に応じて助言を投稿。



オンラインチャットの様子

②はじめての親の会

- **毎月1回実施**
- のべ参加者数**185名**
- 伊藤、佐藤によるレクチャー＋保護者同士の交流会



はじめての親の会の様子

③子どもの様子のフィードバック

- 別に運営している子ども向けのオンラインの居場所において、気になる様子が見られた場合に随時保護者にフィードバックを実施。

④継続親の会

- **毎月1回実施**
- のべ参加者数**345名**
- 伊藤、佐藤のほか、教職員支援に属する先生方や外部講師、当事者の学生が登壇し、毎月異なるテーマで勉強会を開催した。

すべての活動参加の入り口として実施している「はじめての親の会」の参加者属性は、以下のようにになっている。

- 未就学～中学3年生までいるが、**小学校低学年**の子どもの保護者が最も多い。
- 子どもの男女比は7:3程度で男の子が多い。
- 居住地は東京近郊を中心に、大体人口分布に沿って全国各地に広がっている。

【オンラインコミュニティで行われた相談・会話の一例】

- 不登校の子どもの日中の過ごし方について
- 夫とのやり取り、子育て方針のずれ違いの悩み
- 中学受験など進路について
- 子どもの無気力への寄り添い方
- 様々な体験談のシェア(習い事、フリースクール、課外体験、転校など)
- 母子分離不安、偏食、などとの向き合い方について
- 学校との連携、子どもの特性をどう伝えるかについて 等

目次

1

令和5年度に実施した取り組みについて

2

支援対象者(保護者・教職員)からの評価

3

令和6年度の計画について

評価 - 教員支援 <個別相談>

【相談直後のアンケートより(回答5件)】

相談者満足度	4.6点 / 5点満点中
感想(抜粋)	<ul style="list-style-type: none">・丁寧に説明してもらえて、なぜそうすべきなのかも納得できて、前向きな気持ちになりました。・悩みを丁寧に一つずつ聞いてくださり、そのことについて都度的確なアドバイスを頂けたことは、明日からの校務に活かせるだけでなく、自分自身の心の糧にもなりました。また子どもたちのことを頭では理解しつつも、周りとの調和を気にし過ぎていた自分の考えにも気付くことができました。・学期単位、あるいは半年に1回ほどでも継続的に相談させていただければ幸いです。

【相談から3か月後に行ったアンケートより(回答3件)】

すべての回答者が、**子どもの特性を踏まえ、何らかの対応を新たに実施した**と回答していた。

「一番工夫した対応について、具体的に何をしたか教えてください」という質問には以下の回答が寄せられた。

- 地域の支援学校に相談をして学校訪問をしてもらい、一日の流れがわかることで安心して取り組めるようになるため授業の流れを提示した。
- 教員の理解を深めるための校内研修会を実施した。
- 話をするとき、順序立てて話せるように、ワークシートを作ってみた。

評価 - 教員支援 <相談会>

学ぼうという意欲の高い先生が参加してくださり、参加後のアンケートでは概ね高評価を得た。
しかし、通常業務のみで多忙な中、参加する先生方の幅をどのように拡げていくかが課題であると感じている。

【参加直後のアンケートより(回答60件)】

参加者満足度	4.43点 / 5点満点中
感想(抜粋)	<ul style="list-style-type: none">・知らないことが多いので、これから学んでいきたいと思います。・質疑応答で、実際に困難を抱えていらっしゃる先生方のお話をお聞きし、手触り感を持ってその困難を感じる事が出来ました。・正直に申し上げて、特定分野に特異な才能のある児童生徒やその支援に対して、穿った見方をしていたところもあり、あまりいいイメージを持っていなかったのですが、今回真摯にお話をしていただいたことで、随分と理解が深まると同時に優しいイメージを持つことができました。・今担任している児童の難しさについて、理解する大変良い機会となりました。講話の内容にあった特性があまりにも当てはまり、驚いています。学校で今日の話を共有し、児童へのより良い支援方法を検討していきたいです。

目次

1

令和5年度に実施した取り組みについて

2

支援対象者(保護者・教職員)からの評価

3

令和6年度の計画について

令和6年度の計画 – 教員支援

①個別相談

- 引き続き、専門家4名による受け入れ体制を整備し、メールまたはオンラインにて新規の相談者を受け入れる。
- NEW ● 空き枠があれば相談回数を1回に限らず、希望する相談者に対しては、継続した個別相談を実施。(3月に1件実施予定)
- NEW ● ケース会議については個人情報の観点から実施が難しいという意見が多く、実施が見通せていない。そのためケース会議の定期的な実施は行わず要請に応じて実施することとする。

②相談会 (勉強会)

- NEW ● 令和5年度は、入門編として毎回同じテーマで初学者を対象に行ってきたが、一定数の参加が得られたこともあり、来年度は各回テーマを変えてより内容を充実させることを検討中。

参加者は、入門編の動画をアーカイブで視聴し、さらに追加でテーマ別の勉強会に参加することで、より理解を深められるようになる予定。1名が複数回参加することも歓迎する。

③EDUPEDIA 掲載

- 引き続き、多くの教員に伝えたい情報を中心に記事を作成予定。
- 現在公開中の専門家へのインタビュー記事に加え、教員個別相談のサマリーを個人情報に配慮し匿名化した上で掲載する計画を進めている。

令和6年度の計画 - 保護者支援

①オンライン
チャット

②はじめて
の親の会

③子どもの
様子の
フィードバッ
ク

④継続親の
会

- 今年度と同様に実施・活用する方針

保護者向け
動画の開発

NEW

- 文部科学省からの依頼を受け、新たに保護者向けに特異な才能を有する子どもたちへの接し方に関する動画を作成することを検討中。